

日経STOCKリーグ の学習効果について

産業能率大学

経営学部

教授 倉田洋

kuratah@mi.sanno.ac.jp



プログラム全体像と 年間設計



日経STOCKリーグの位置づけと学修目的



中長期的投資分析

学生は実在企業の投資価値を中長期的視点で分析し、論理的なレポートを作成します。

探究型学習統合

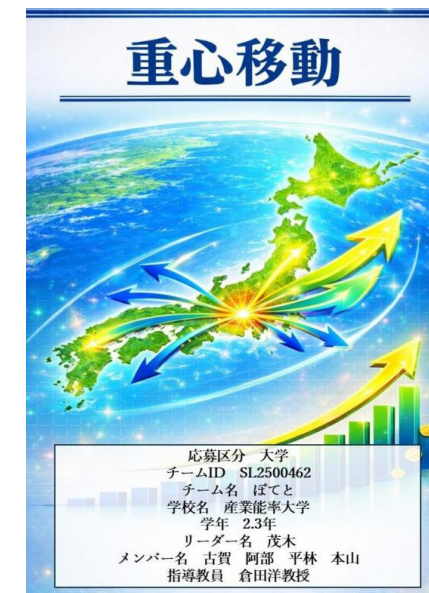
探究学習と課題解決型学習を融合し、実践的で深い学びを促進します。

協働的学習効果

チームでの合意形成や役割分担により、協働の力が養われます。

実社会との連携

実際の企業を対象に学ぶことで、社会や経済の動向に直に触れます。



2025年度受賞レポート

年間スケジュールに基づく段階的学修プロセス



年間スケジュールの構築

2月から翌年1月までの体系的なスケジュールで学年交代や春合宿を実施します。

チーム結成とプロジェクト開始

5月に3年生中心のチーム編成後、6月から実践的プロジェクトが始動します。

新メンバー合流と学修構造

7月に新2年生が決定し、9月合宿でチームに正式参加し学修構造が完成します。

発表と成果提出

11月の中間発表や学園祭参加、12月のポートフォリオ選定、1月の最終課題提出を行います。



2023年度受賞レポート

IBLとしての教育効果



データ収集・文献調査を通じた探究力の育成

信頼性の高い情報収集

学生は統合報告書や有価証券報告書などのIRデータを用いて、企業の財務状態や戦略を分析します。

学術的裏付けの構築

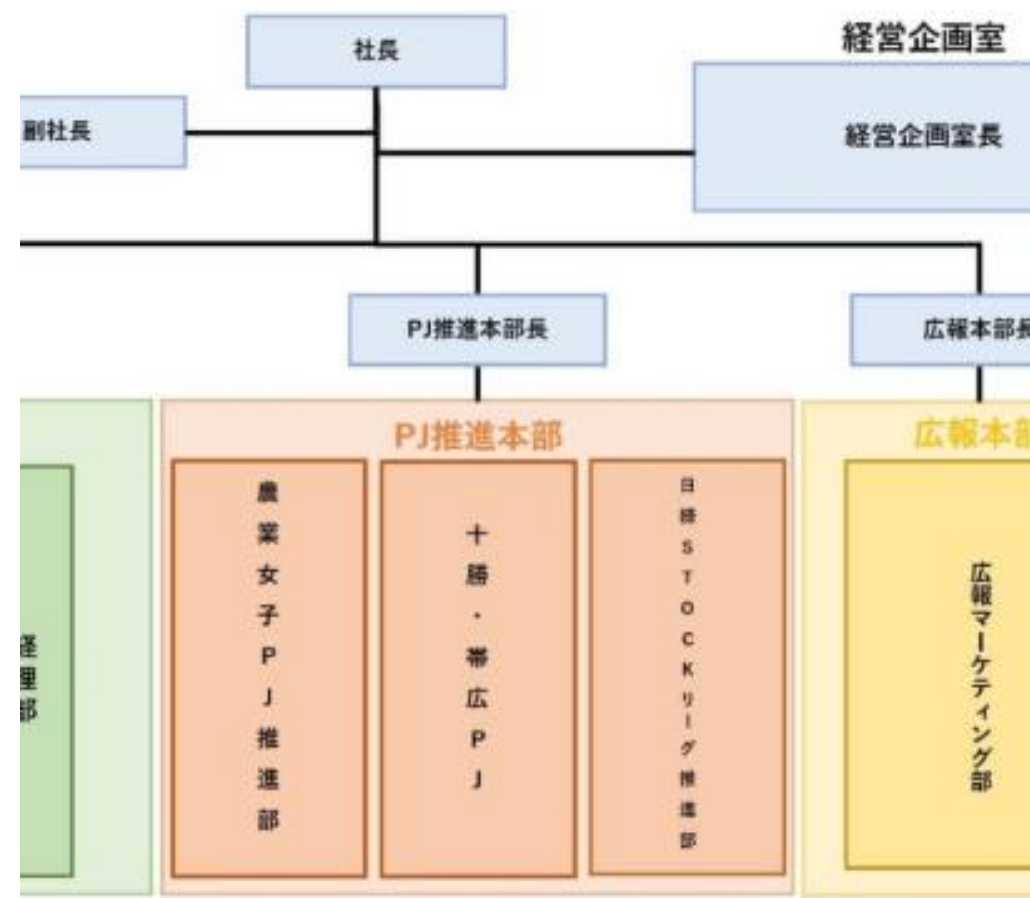
学術論文や専門書を参照し、理論的枠組みを用いて議論を深める力を養います。

外部環境の多角的理解

業界構造分析やマクロ経済調査を通じて、企業の外部環境を多面的に把握します。

能動的な探究学習

学生は情報の信頼性や解釈を問いながら、受動的から能動的な学びへと転換します。



企業インタビュー・展示会参加による学びの深化 + ●

対話による情報収集

学生は事前に仮説や質問を準備し、双方向的な対話で本質的な情報を引き出します。

仮説の修正と学び

現場で得た情報により仮説が修正され、試行錯誤しながら探究学習を深めます。

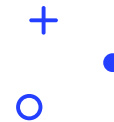
展示会での現場体験

展示会参加により業界動向や競争環境を肌で感じ、リアルな課題や可能性を発見します。



企業インタビューの様子（企業の許可をいただき学生が撮影）

PBLとしての教育効果



テーマ設定から成果物作成までの課題解決プロセス

テーマ設定と情報収集

学生は多様な視点から情報を集め、意義あるテーマをチームで選定します。議論や意見の対立も重要な学びの機会です。

仮説構築と検証

設定したテーマを基に仮説を立て、定量的・定性的に検証を行い論理的な分析を深めます。

成果物作成とストーリー化

分析結果をストーリーとしてまとめ、投資レポートとして最終アウトプットを完成させます。



北海道 帯広地域での様子 学生撮影

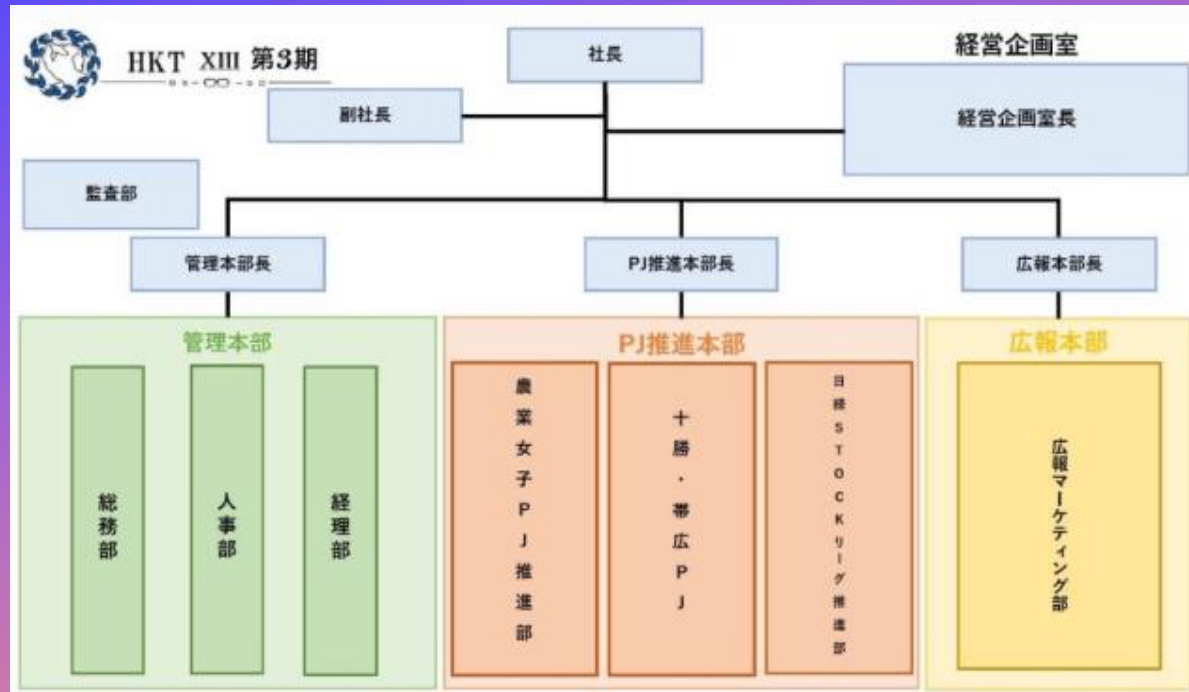


北海道 帯広地域での様子 本学HPより

A vertical bar on the left side of the slide, transitioning from orange at the top to blue at the bottom.

プロジェクト管理と キャリア教育

プロジェクト管理能力 の実践的習得



ゼミを疑似会社化してプロジェクトとして進める

計画性と進捗管理

長期スケジュールに沿ってマイルストーンを設定し、着実に進捗を管理する能力が養われる。

チーム内コミュニケーション

役割分担と円滑な情報共有で効果的な意思決定を実現するためのコミュニケーションが重要である。

リスク管理と柔軟性

トラブル発生時にリスクを把握し、代替案を考慮する柔軟な対応能力が必要とされる。

実践的なマネジメント基礎

学生は現実のプロジェクト経験を通じて、将来の職場で役立つマネジメントの基礎を体得する。

社会人基礎力としてのキャリア教育効果

主体的な挑戦力

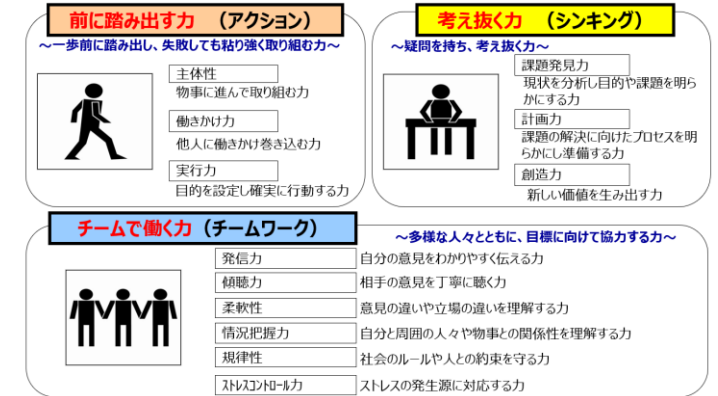
学生は失敗を恐れずに主体的に行動し、前に踏み出す力を養います。

課題発見と思考力

課題を発見し、解決策を深く考える思考力を身につけます。

発信力と傾聴力

チームで意見を分かりやすく伝え、他者の意見を尊重し傾聴する力を磨きます。



A vertical bar on the left side of the slide, transitioning from orange at the top to blue at the bottom.

学年混成チームと 学修コミュニティ

縦のつながりが生む人的ネットワークの価値

学年を超えた協働

縦のつながりは学年を超えた協働を促進し、深い学修効果をもたらします。卒業後も信頼関係が継続します。

長期的な信頼関係

共通課題への長期的な取り組みが強い信頼を形成し、卒業後の情報交換や相談に繋がります。

学修環境の形成

ゼミ活動は点ではなく線や面で人を結び、知識のみならず人間関係という無形資産を育みます。

応募区分	大学
チームID	SL2500462
チーム名	ぽてと
学校名	産業能率大学
学年	2.3年
リーダー名	茂木
メンバー名	古賀 阿部 平林 本山
指導教員	倉田洋教授

2・3年生合同チーム
(受賞チームレポート表紙より)

最後に 学生のリアルな言葉

当ゼミ4年生Mくん（本学HPより）

＜実践を通して学ぶ、リアルな経営学＞

倉田ゼミは「自由と主体性」を掲げ、擬似企業「HKTコーポレーション」の運営を通じて組織運営を実践的に学びます。強みは強固な縦のつながりです。「日経STOCKリーグ」での学年合同チームや、OB・OGとの交流を通じて倉田ゼミの文化を継承し、将来の相談もできる環境があります。

活動は日経STOCKリーグ、北海道帯広市でのインターン、商品開発など多岐にわたり、リアルな経験から経営学を学習します。倉田教授の温かい指導と切磋琢磨できる仲間が存在により、組織での協働と深い知見を養えることができます。